

ろいろな新商品を開発しているという。平成20年2月に発売したマイクロボーズマルチロングクッションについて石田拓哉社長に話を聞いた。

要望を具現化

ママコエプロジェクト

サン

する要望、意見などをどこの差別化を図ってロジックが母親たち細かい部分にも母親た聞いて商品開発に反映しているという。現在、登録者は全国点"になればという思"といる。また、そつして開発に約200人。登録者いもあるとのこと。素材の変更

していく過程をホームページなど公開する。ページなどで公開する。ンケートによつても商チロングクッション。発売以来、そんな使ここで、本当の生の声品開発に参加してもらも、ママコエプロジェクトいやすさもよく認知さを集めていることを示している。商品のモニクトによつて誕生したれ、予想以上のヒットすとともに、類似品なタリクをするこも商品で、抱き枕と授乳商品となった。その後、

あいちベンチャーハウスの3社

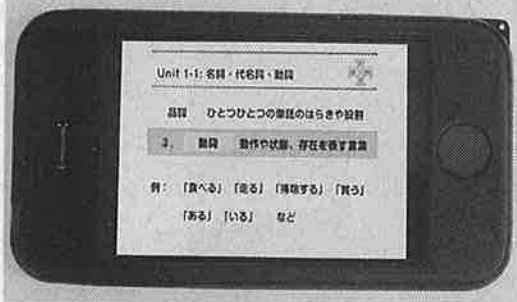
あいちベンチャーハウス(名古屋市中区新栄2の2の24、電話052・242・6070)に同居しているサウンドウォークジャパン(加藤匠社長)、クロススクローバ(奥村典弘社長)、プロジェクト・ダブリュー(伊藤昭浩社長)のITベンチャー3社は、iPhone(アイフォン)を活用したモバイル学習システムの開発に着手した。IT技術を活用したeラーニングは、パソコンを利用する方式が主流となっているが、普及のめざましいモバイル端末を活用し、いつでもどこでも学習できるシステムの構築を目指している。金城学院大学文学部の新入生を対象に検証を行う計画で、3月から試行導入する。(津田一孝)

モバイル学習システム開発

入学前教育に照準

3月から金城学院大で検証

ユーがシステム開発を担当。第一弾として、英語の基礎教育に関する教材づくりを行って



iPhoneで英語の入学前教育

モバイル端末を活用したeラーニングは、広く普及する可能性を秘めているが、3社が当面のターゲットに設定しているのは、入学が決まってから授業が始まるまでに行う新入生のための学習。受験勉強モードから大学教育モードへ新入生の頭脳を切り替えたリ、さまざまな高校から入学してこつたニーズへの対応が求められる。欠けている部分を補つサウンドウォークなど、大学で入学前教育の必要性が指摘されるようになっており、プロジェクト・ダブリ

「本格回復は下期から」

中部生産性本部 新春講演会 講師に湯元健治氏

中部生産性本部(早川敏生会長)はこのほど、名古屋市中区の名古屋商工会議所で「新春経済講演会・新生産性交流集会」を開催した。中部地区主要企業トップや労働組合関係者ら150人が参加した。冒頭、早川会長が、「幾多の試練を乗り越えてきた中部地区が持つポテンシャルは高く、グローバル化する経済への対応を加速させることで日本経済成長の原動力となつてほしい」とあいさつ。日本総合研究所理事

復は下期から再来年になるだろ"と見通しを語つた。また、"急拡大する新興国の中間所得層にターゲットを絞つた経済シフトや事業換が必要だ"に助言した。

貝沼建設株式会社 安全協力会2010年新年

足二